

設計	株式会社 小松隼人建築設計事務所
施工	田村建設工業
竣工日	2021年12月23日

◎建物概要

建設地	広島県広島市
敷地面積	527.35㎡
延床面積	217.40㎡
構造・規模	木造2階建

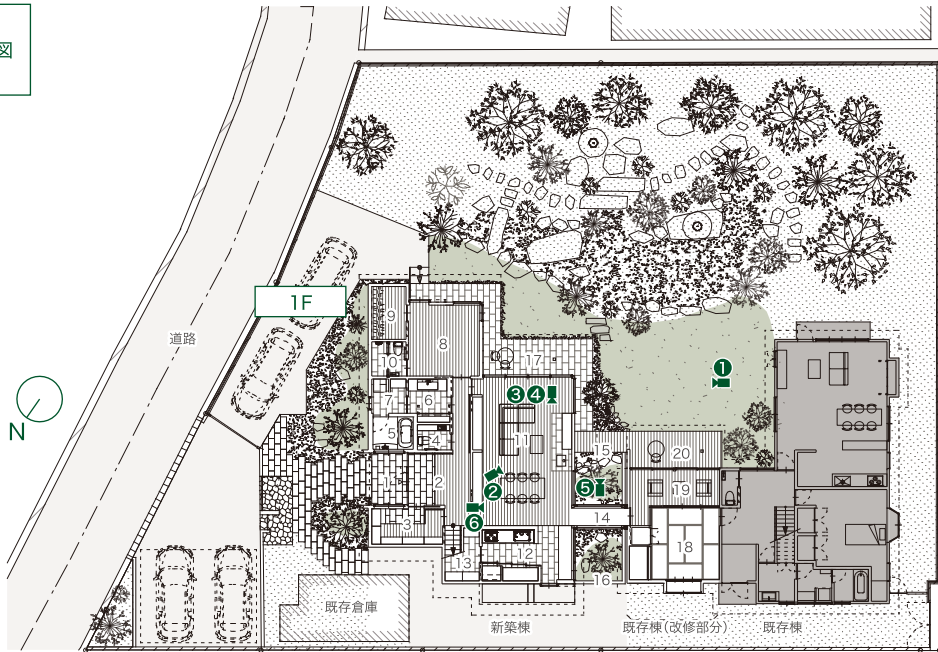
◎設備面の特記

厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	ガス給湯機
冷暖房機器	エアコン



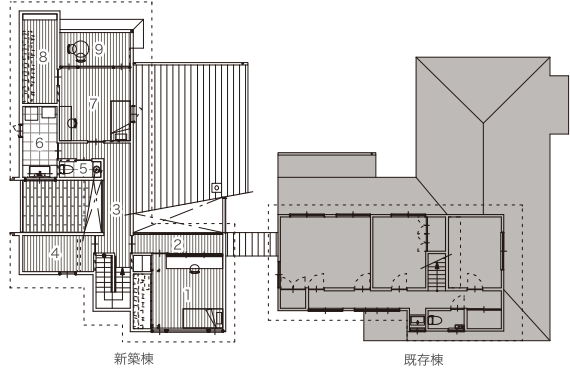
①西外観。南の日本庭園と新設した樹木がなじむような植栽計画とするとともに、西側隣地からの視線も植栽によって調整している。写真左は既存棟。築60年家屋の解体時に和室の仕上げを可能な限り取り外し、部分リノベーションした既存棟の客室に採用した。

平面図



- 1 ポーチ
- 2 玄関ホール
- 3 SC
- 4 トイレ1
- 5 浴室
- 6 洗面室1
- 7 脱衣室
- 8 寝室1
- 9 WIC1
- 10 トイレ2
- 11 リビングダイニング
- 12 キッチン
- 13 バントリー
- 14 回廊1
- 15 中庭1
- 16 中庭2
- 17 濡れ縁1
- 18 客室
- 19 広縁
- 20 濡れ縁2

2F



- 1 寝室2
- 2 回廊2
- 3 回廊3
- 4 納戸
- 5 トイレ3
- 6 洗面室2
- 7 寝室3
- 8 WIC2
- 9 バルコニー



②③④各階の小屋裏をなくし、屋根勾配なりの勾配天井とした。1階の天井と2階の床のずれの隙間に可動ルーバーを設置。ルーバーの開放時は2階の回廊まで視線が通り抜け、ルーバーを閉じることでLDKの熱環境を調整できる。



⑤⑥敷地の南側の日本庭園と、北側に配置された建築という構図に中庭を差し込んだ。このことで東西に流れる風が南北にも抜け、両棟の住環境が豊かになった。既存棟によって西日を遮りながら、日中の穏やかな光を採り込んでいる。

設計コンセプト

広島市の西部に建つ住宅。60年前に平屋住宅が建っていたが、その30年後に増築を行い大きな一棟へと変遷していた。この築60年の棟を新たに建て替え、新築棟に親世帯、既存棟に子世帯が暮らす計画である。どの諸室も庭園側に開くように計画すると南西に開いた平面計画となり、南東に開く既存棟と対称の配置が導かれた。互いの棟に十分な隙間を空けて風道をつくり、隙間は庭園の新たな要素としての中庭とし、回廊1を配置して棟間を繋いでいる。既存棟の一部は客間として改修して、濡れ縁を新築棟まで繋げることで回遊動線をつくった。濡れ縁から入る風を2階の諸室まで通すことで空気循環を促し、季節の変化によって主室に冷氣と暖気を溜める空気滞留も

つくりたいと考えた。まず各階の小屋裏をなくし、屋根勾配なりの天井とする。この1階の天井と2階の床のずれによって生まれた隙間に可動ルーバーを設置すると回廊2は空気調整室となり、窓を開放すると温度差換気により濡れ縁からの風がルーバーを通り抜け、閉じることで主室の空気を滞留させた。採光は濡れ縁からだけでなく中庭から光を取り込むと共に、2階から差し込む直射光を可動ルーバーに通過させて穏やかに取り込む。空気同様にルーバーの開閉で採光量も調整することができる。広大な敷地と新旧の棟の接続方法から風道を導き、可動ルーバーによって風道の調整を行うことで、豊かな庭と共に風を感じながら暮らすことのできる住宅である。

審査委員講評

新築部門ですが築30年部分を残し築60年部分を建て替えた半リフォームの作品です。広い南庭に対して雁行する配置や、既存ボリュームとは中庭・濡れ縁を介して適度な距離感を保つなど巧みな平面計画です。断面も2階の廊下ルーバーの開閉によって風や温度環境、採光を調整するなど、中庭の通風、間接光と共にLDKの環境をうまくコントロールしています。全体的にバランスの取れた完成度の高い作品です。